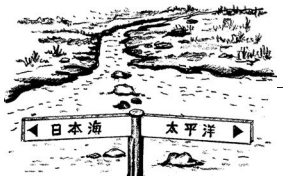
ずいそう



里山に憩う

岩　本　忠　和

山形県最上町にあるJR陸羽東線堺田駅前に珍しい分水嶺がある。一般的には山の頂上付近の峰の稜線が分水嶺となっている場合が多い。しかしここは駅前の小さな分水嶺公園にその一角があるのだ。小さな水路から流れてきた水は，日本海側と太平洋側に分かれて流れ，太平洋へは大谷川から江合川へ，そして北上川と合流して石巻で太平洋へ注ぐ。一方日本海へは明神川から小国川と合流後，最上川に合流し，酒田で日本海へと流れ落ちるのである。

私はこの分水嶺のある堺田のあたりの里山がお気に入りで，春の山菜の時期には良く足を運び，山菜採りを楽しんだり，里山の風景を観ては心と体を和ませている。

実は私の生まれは秋田県のヘソといわれる太平山の麓で，雄物川の支流，岩見川のほとりである。

そこには一年中遊べる山と川があり，少年時代はいつも川で魚を追い，山を駆け巡っては山菜採りやキノコをはじめとする山の幸を追って遊び回っていた。特に記憶に残っているのは，雪が溶け里山に春がくるころである。昔は囲炉裏はもちろん，炊飯用の釜，風呂釜も全て薪でまかなっていた。そのため毎年春先に薪を切り出し，一夏枯らしてから秋口に取り入れるのが年中行事のようになっていた。

父に連れられていく柴刈りは，山の雪が消え，斜面に可憐に咲く山桜がそこここに見られる頃に行われた。お昼になり，梅干しに塩をまぶしただけの質素なおふくろのおにぎりは，山桜の下で清々しい空気の中，遠くの山や川を見ながら食べるので，格別においしく感じたものである。今ではコンビニがあらゆる場所に配置され，いろんなおにぎりや弁当が手に入る。食事場所も多種多様とあるが，昔はおにぎりと沢庵だけの質素なお昼だったけれど，現在の美食時代とは比較出来ない別世界のすばらしい昼食だった。

その里山もすでに60年以上経ち，多分大森林となり昔の面影はなくなっていることでしょう。しかし，楽しい思い出は大人になっても忘れられず，仙台市に居を構えてからも，仙台市の保存緑地をはじめ山形県や岩手県までででかけ，里山を歩き，川を眺めては自然のすばらしさを満喫しているこのごろである。

先に述べた堺田駅付近には毎年のように足を運んでいるのであるが，気にかかっていることもある。近くに奥羽山という山があり，その麓に牧場があったらしく，牧草地だったと思われる場所は，現在ススキやタニウツギ，イタドリなどが繁茂し，見るも無惨な原野となっている。牧場跡地の周りの山は，昔は集落民のシバ刈りやカヤ刈りの里山として管理していたと考えられるが，今では定期的に柴刈りをすることを実施しなくなったせいか，コナラ，水ナラや栗，クヌギなどが，原生林のような大木の雑木林となっている。少子高齢化が進み，集落で里山の管理が出来なくなっているのではないかと。

3年ぐらい前にその大木の雑木林の一部の伐採が始まり，その一角には新しく道路建設が行われた。木を伐採し道路が出来たことにより，周りの景色が一変し，見晴らしが良くなり，本来の里山の雰囲気になった。そしてタケノコやワラビが一斉に元気を取り戻して生え始めたのをはじめ，シドケ（モミジガサ），アイコ（ミヤマイラクサ），ホンナ（ヨブスマソウ），フキなどの山菜も採りやすくなった。沢にはまだ雪渓が残っているにも関わらず，コブシの花が青空に向かって見事に咲き誇り，サンカヨウやカタクリの群落，キクザキイチゲ・二輪草など，種々な山野草が豊富に咲いている。山野草好きの私には，山菜を採り，周りの景色を満喫し，おいしいおにぎりを食べられる最高の憩いの場所となった。

話がそれてしまうが，東北地方整備局が管理する「みちのく湖畔公園」に平成26年6月に「里山地区」が開園した。開園したばかりの公園を7月中旬に歩いてみたが，遊歩道はしっかり整備されていたが，山野草，立木の名札，見晴台の景観などはまだ未整備だった。今後整備が進めば，また一つ近くの里山の楽しみが増えることになる。

――いわもと　ただかず　（一社）日本建設機械施工協会東北支部　参与――